

リンゴ作農業者における剪定技能の形成過程に関する一考察

—キャリアの視点から—

真室川町産業課 米澤 大真
日本大学生物資源科学部 宮部 和幸

1. はじめに

リンゴ生産をとりまく環境は厳しい。担い手の高齢化の進展や後継者不足による労働基盤の弱体化が進むとともに、長期化する消費不況による販売不振、生産資材の高騰等、異常気象による自然災害も加わり、その結果として、リンゴ作農業者の生産意欲の減退による経営規模の縮小化、耕作放棄地の増加をまねいている。

しかし、全国的に厳しい生産環境にありながらも、青森県では長野や岩手等のリンゴ主産県に比べて後継者へのリンゴ樹および生産技能の継承がなされ、農業所得の減少、農業者の高齢化などの影響を受けながらも、一定の歯止めがかかっていることが推察される。

青森県のなかでも津軽地域は、後継者に対して、リンゴ生産に必要な不可欠な剪定技能を段階的に指導する剪定集団等が存在し、それがリンゴ作経営の安定に大きく影響しているのではないかと考えられる。

本報告では、青森県、特に津軽地域のリンゴ作農業者を対象として、キャリアの視点から(註1)、リンゴ栽培の根幹であり、その継承の鍵となる剪定技能の形成過程を実証的に明らかにすることを課題とする。津軽地域における所属地域の異なるリンゴ作農業者に対するヒアリング調査を通して、課題に接近する。

2. 予備的考察

剪定技能は、収量や品質、さらにはリンゴ樹の経済寿命にまで大きく関わる重要性の高い技能で

ある。その技能は、口承や模倣に依存せざるを得ない、いわゆる暗黙知の部分が多く、その習得には高い困難性を有する。また、剪定はその秘匿性ゆえに、それぞれの地域内での技能の囲い込みが行われるために、人的ネットワークが深く関わっている。こうした剪定技能の特質を踏まえ、本報告では、キャリア論に依拠しつつ(註1)、キャリアの節目とメンターに着目して分析を行う。

津軽地域におけるリンゴ作農業者の剪定技能をめぐる典型的なキャリア・パターンは、①学校等を卒業後、親のリンゴ園の手伝いを行いながら、結果母枝の剪定から徐々に習得してゆく、②青森県りんご産業基幹青年事業を活用した基幹青年講習を受講し、③その後、親から離れ、地域を回りながら自分の剪定を見つけるため、もしくは目指す剪定を探索するために様々な剪定技師のもとをまわる。④青森県りんご剪定士講習を経て、高い剪定技能を持った「剪定士」として、また剪定集団のリーダーとして活躍する。

したがって、キャリアの節目として、最初の節目には「就農」があり、次に初期の剪定技能を確保する節目(「ファーストステップ」)、そして剪定技師の中から、自分のメンターである師匠を確保する節目(「セカンドステップ」)、さらに剪定方法を教える立場となる節目(「サードステップ」)に整理することができる。

3. 事例分析

表1は地域の異なるリンゴ作農業者の概要と剪定技能の形成過程を4つの節目で整理したものである。農業者Aは最終的に特定の剪定集団に属さないタイプであり、農業者Bは地域を回りながら

技師を探し、特定の技師と師弟関係を結んだタイプである。農業者 C は基幹青年部に所属し、比較的早期に特定の技師と師弟関係を結んだタイプであり、農業者 D は師弟関係を結んだのちに剪定に納得がいかず、新たな師と師弟関係を結んだタイプである。

表 1 事例の概要と剪定技能の形成過程

農業者	A	B	C	D
経営主・年齢	61歳	59歳	54歳	69歳
地域	浪岡町	小栗山一石川	相馬村	平賀町
雇用労働力の有無	農繁期 3人	なし	農繁期 2人	農繁期 2人
栽培品目	リンゴのみ	稲、リンゴ	リンゴのみ	リンゴのみ
①就農	18歳、高校卒業後就農	18歳、高校卒業後就農	20歳、就農	18歳、高校卒業後就農
②ファーストステップ(初期剪定技能の確保)	父親	父親	父親	父親
③セカンドステップ(師匠・メンターの確保)	41歳、剪定士講義内で出会った技師のもとを渡り歩きながらさらに技能を磨く	42歳で現在の師に出会う	29歳、地域の師のもとに弟子入り	51歳、リンゴ協会入会時に現在の師と出会い、師の率いる剪定集団に従事。
④サードステップ(剪定士)	41歳第3期剪定士講習受講	42歳 第5期剪定士講習受講	54歳現在、第6期剪定士講習受講中	53歳、第5期剪定士講習受講

そしてこれらリンゴ作農業者の人的ネットワークに着目すれば、農業者 A は青年部内で勉強会を開き、仲間とともに剪定技能の形成を行い、一方で地域主催の剪定の勉強会にも出席し、剪定士となった後にも、様々な技師とネットワークを築いている。農業者 B は地域の仲間と剪定技能についての意見交換を行い、さらに仲間の口コミを基本として地域内の技師のもとで技能を磨いている。農業者 C は基幹青年部を卒業後も、青年部の仲間たちとの交流を続けながら、地域の剪定集団にも属している。農業者 D は 33 歳時、51 歳時に地域の異なる 2 つの剪定集団に属した経験を持っている。

4. 考察

事例分析から、次の諸点を指摘することができる。第 1 に、リンゴ作農業者における初期技能形成の節目、すなわちファーストステップにおいて、父親は指導者として、またセカンドステップのメンターを探す際の剪定技能の物差しとして、重要な存在であることである。第 2 に、初期技能を形

成するためのファーストステップから、自分の剪定の師匠などを見つけるセカンドステップまでいずれの事例においても多大なる労力と時間を要していることである。第 3 に、剪定は個人技能でありながらも、その形成過程においては、剪定集団や剪定講習会、地域のリンゴ作仲間や青年部会、基幹青年部などの剪定技能をめぐる多様な人的ネットワークが形成されていることである。リンゴ協会の講習や、地域の剪定集団や師弟関係とは別に、地域の情報の交換や剪定技能の勉強会などを行い、切磋琢磨し合う同世代の仲間の存在が重要であることも明らかとなった。

5. おわりに

リンゴの剪定は、収量や品質、さらにはリンゴ樹の経済寿命にまで大きく関わる重要性の高い技能であるが、それは、口承や見よう見まねに頼らざるを得ない、いわゆる暗黙知を中心とした技能の形成が行われる。また剪定技能は、その秘匿性ゆえに、それぞれの地域内での囲い込みが行われるため、人的ネットワークが深く関わっている。

今後の研究課題としては、1 つに、リンゴ作農業者が所属する剪定集団・グループや地域の相違が剪定技能の形成過程にどのような影響を与えるか。2 つに、ファーストステップから、自分なりの剪定技能の師匠などを見つけるセカンドステップまでには、多大なる労力と時間を要するわけであり、その時間を節約するための効率的な技能形成システムを明らかにする必要がある。

(註 1) 本報告のキャリアは金井[1] (pp133-143) の「成人になってフルタイムで働き始めて以降、生活ないし人生(life)全体を基盤として繰り返される長期的な仕事生活における具体的な職務・職種・職能での諸経験の連続と節目での選択が生み出してゆく回帰的意味付けと将来構想・展望のパターン」に依拠している。

引用・参考文献

- [1] 金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 新書、2002。